

## ハテナソン(質問づくりワークショップ)

日時：3月7日(月) 16:30~18:30

場所：15105セミナー室

参加者：加藤研究室、木村研究室、佐藤研究室の3年生と教員

方法：米国正問研究所の質問づくりメソッド(KS解釈版)

教員の仕事：

台本・場づくり、観察、成果物取りまとめ(司会進行：KS)

学生の仕事：

質問出し、洗練、発表、振り返り

**16:30-16:45**

開会のご挨拶

グループ分けとアイスブレイク

時間割：

16:30-16:35 挨拶、グループ分け

16:35-16:45 アイスブレイキング

16:45-16:55 ルールの説明、グループディスカッション

16:55-17:15 質問の焦点の紹介、およびアイデア出し

17:15-17:25 開いた質問と閉じた質問の分類、および質問の書き換え

17:25-17:35休憩

17:35-17:55 優先順位づけ、理由の検討

17:55-18:10 質問リストと選定理由の発表

18:10-18:25 振り返り（発言、質問紙調査）

18:25-18:30 総括、挨拶

## 本ハテナソンの達成目標

総合生命科学部3年生による  
4年生のインタビュー質問項目を作る

### 大きな目的：作った質問の用途

いつ

誰が

誰に対して

質問を使って

- ・ 何をおこない
- ・ 何をどのようにしたいのか

## 本ハテナソンの達成目標

総合生命科学部3年生による  
4年生のインタビュー質問項目を作る

### 大きな目的：作った質問の用途

今月中に、  
みなさんによって、  
研究室の4年生に対して、  
インタビューをおこない記録し、  
その内容をみなさんと3教員とで共有し、  
総合生命科学部全体の取組みとしての可能性を探る

## アイスブレイク

- 一、お名前
- 二、ご所属の学科名
- 三、いまの気持ち：線で描く
- 四、なりたい気持ち：線で描く



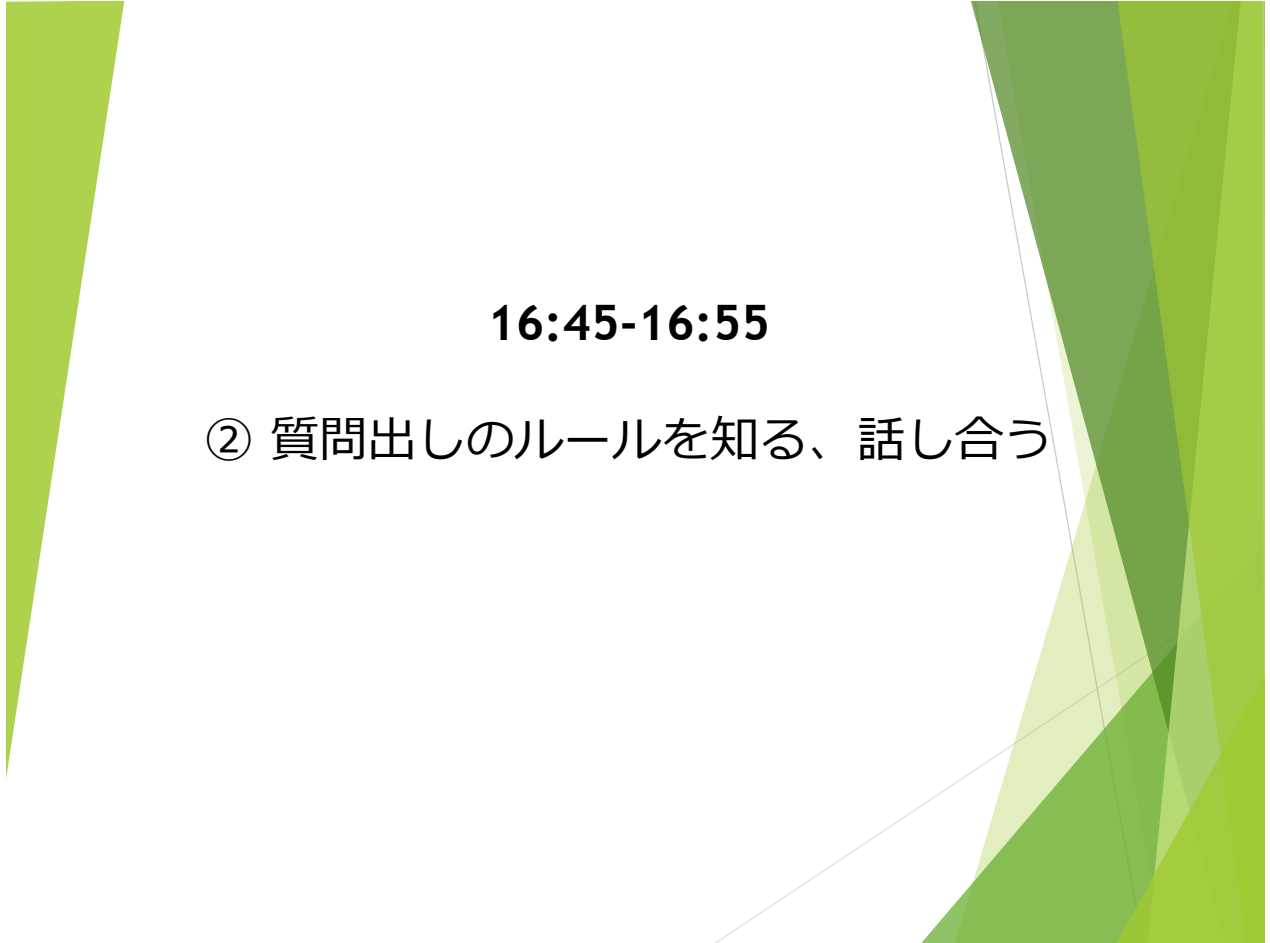
**16:45-16:55**

① 質問づくりの全体像を知る



### **質問づくり：三つのステップ**

- 一、質問のアイデア出しをおこなう
- 二、質問を分類し変換する
- 三、質問に優先順位をつける、発表する



**16:45-16:55**

② 質問出しのルールを知る、話し合う



## 質問のアイデア出しのルール

- ① できるだけたくさんの質問をする。
- ② 話し合ったり、評価したり、答えたりしない。
- ③ 質問は発言のとおり書き出す。
- ④ 意見や主張は疑問文に直す。



16:55-17:15

① 質問づくりの焦点を知る



質問の焦点

総合生命科学部 3年生による 4年生のインタビューの質問項目

- ・何を聞きたいか、聞かれたいか
- ・何を聞くべきか、聞かれるべきか

16:55-17:15

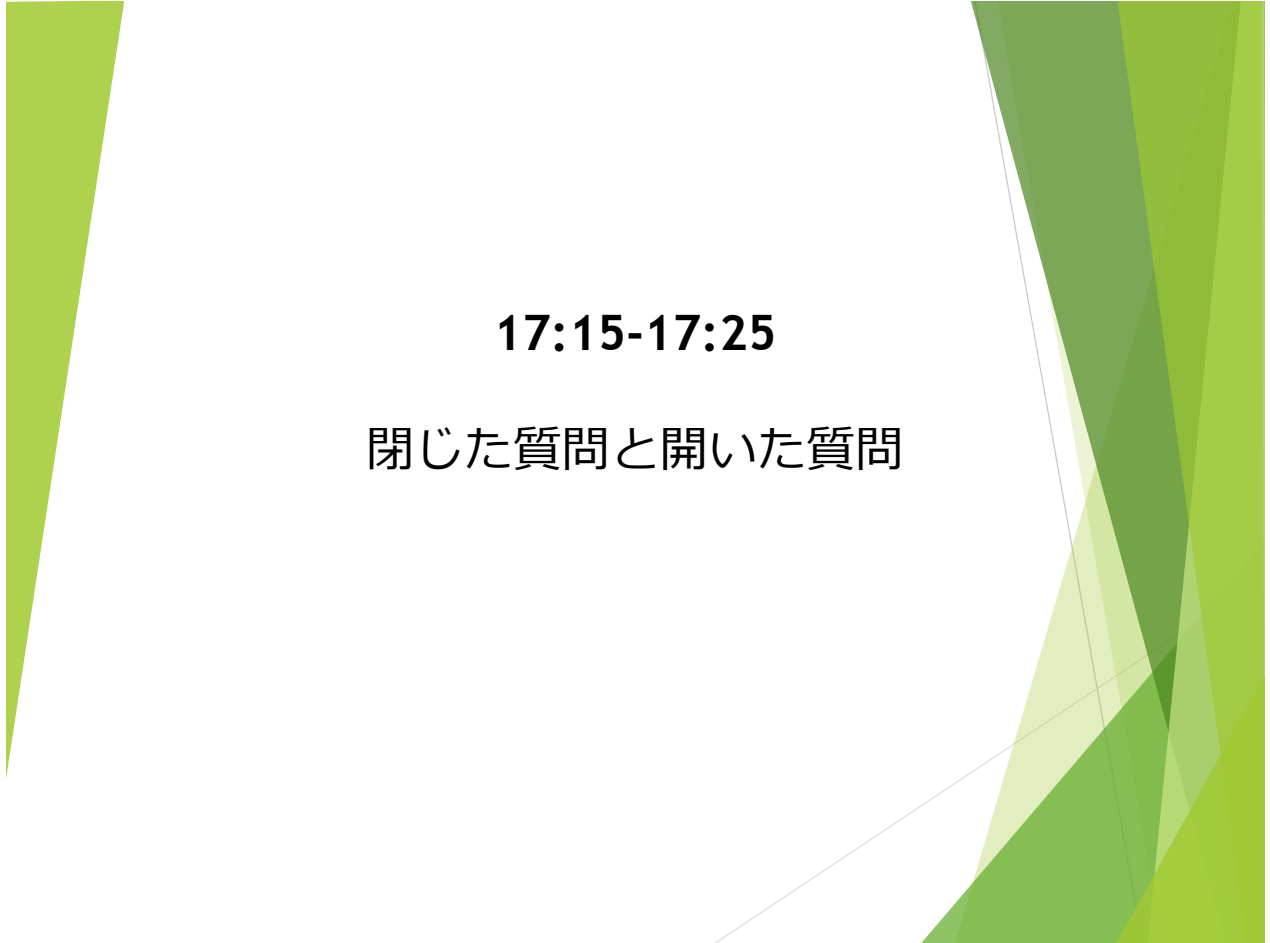
② 質問のアイデア出しを行う

### **本ハテナソンの達成目標**

総合生命科学部3年生による  
4年生のインタビュー質問項目を作る

### **大きな目的：作った質問の用途**

今月中に、  
みなさんによって、  
研究室の4年生に対して、  
インタビューをおこない記録し、  
その内容をみなさんと3教員とで共有し、  
総合生命科学部全体の取組みとしての可能性を探る



**17:15-17:25**

閉じた質問と開いた質問



### 質問を分類し変換する

- ① 閉じた質問と開いた質問の違いを知る。
- ② 閉じた質問に△、開いた質問に○をつける。
- ③ 閉じた質問と開いた質問の特徴を話し合う。
- ④ 1～2つの質問を他の質問に書き換える。





**17:25-17:35**

休憩の時間



**17:35-17:55**

① 質問に優先順位をつける

## 質問に優先順位をつけ、発表する

- ① 優先順位をつけるための基準を考える。
- ② 優先順位の高い質問を3つ選ぶ。
- ③ 選んだ質問の理由を述べられるようにする。
- ④ グループ活動の成果を全体に報告する。

**17:35-17:55**

- ② 選定理由を検討し、同意を得る



**17:55-18:10**

質問を発表・共有する



**18:10-18:25**

振りかえる

あなたは何を学びましたか？

自分で質問できるように学ぶことはなぜ大切なのですか？

学んでいる内容について何を学びましたか？

どのように学んだのですか？

質問する際はどんな感じがしましたか？

行ったことのなかで、よかったことは何ですか？

質問づくりの方法を今後どのように使いますか？

**18:25-18:30**

総括、閉会のご挨拶



本ハテナソンに対するご意見・ご感想・問合せなど

コーディネーター

佐藤 賢一（さとう けんいち）

連絡先：kksato@cc.kyoto-su.ac.jp

### A Key Message

質問づくりこそが民主的な市民社会をつくり出すのに欠かせないスキルである

### 参考図書など

たった一つを変えるだけ: クラスも教師も自立する「質問づくり」  
ダン・ロスステインら 吉田新一郎 訳(新評論)

正問研究所 The Right Question Institute – A Catalyst for Microdemocracy

[www.rightquestion.org](http://www.rightquestion.org)